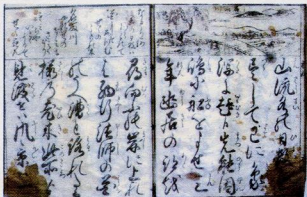
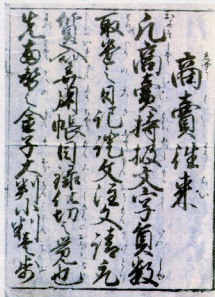


III-3-1



III-3-2



III-3-3

3 『庭訓往來』文政3年(1820年)

国分町 伊勢屋半右衛門 名取市教育委員会 所蔵

『庭訓往來』は室町時代から江戸時代に最も多く学ばれた書の一つです。1年間の手紙の書きなどを集めたもので、初めて勉強する人のための教科書でした。この資料は松島版(函)と呼ばれ、江戸時代に今の仙台市国分町で印刷されたものです。

III-3-1

4 『松島往來』文化13年(1816年)新刻

国分町 伊勢屋半右衛門 所蔵

これは江戸時代の寺子屋の教科書で、仙台から松島までの名所を紹介しています。「つつじがおか」や「瀧屋」などの地名が見られます。松島版の奥の縁起、松島定家の歌(名取川 巻)の目録はあらはれて、花にぞしつむ せせの櫻木 などの歌も載せられています。

III-3-2

5 『商売往來』文政年間(1800年代前半)

名取市 松尾久八郎蔵 村田誠治氏所蔵
名取市教育委員会 所蔵

落書きをいくつかうけての文字、崩壊、心算などについて書かれている本です。算字とともに、読み方の教科書としても使われました。江戸時代の半端から明治の初めまで広く読まれました。

III-3-3